

<遠隔システムを体験した難聴児保護者より>

2012年10月14日

皆様のご活躍、活動は、とてもありがたく感謝申し上げます。

主人は、医師をしております。

工学部の大学も大学院まで進みました。

私は、やっとパソコンを使っていますが、主人と要約筆記の方が息子の支援を行なってくれます。

日頃は、先生がノートテイクしてくれています。

皆様の活動を本当に嬉しく思います。

秋田の事例

私たちの親の会のホームページの事例を見ていただくと情報保障がわかります。

市内の要約筆記奉仕員に、教育委員会に登録いただいています。秋田市の制度で、学校行事支援サポーターがあり、車椅子の方に車椅子を押す大学生を派遣していましたので、聴覚障害には要約筆記が必要だと交渉しました。

学校には支援員もいます。

まず、教育委員会の予算や制度を調べました。

その予算で使える人を調べました。

支援員の中で、要約筆記の方を登録することも可能です。

後は、福祉課から予算を持って派遣してもらう方法もありますね。

運動会や行事では、学校に原稿のデータがありますので

要約筆記はスムーズです。学校では、各市町村で教育委員会が違いますので、使えるような予算を考えたり、支援員の枠に入れてもらったりですね。

息子の学校では、難聴学級の先生も手伝って字幕を考えてくれています。

息子は、手話でも要約筆記でも支援を受けるように育てて来ました。

どちらでもいいので知ることを優先にしています。

教育委員会に要約筆記奉仕員の登録をお願いしています。

まだ、秋田には、要約筆記者がいません。